

岩手県感染症週報

平成25年第30週(7月21日～7月28日)

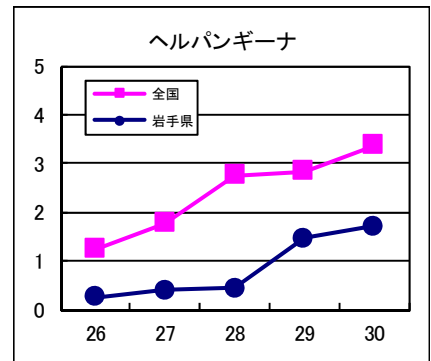
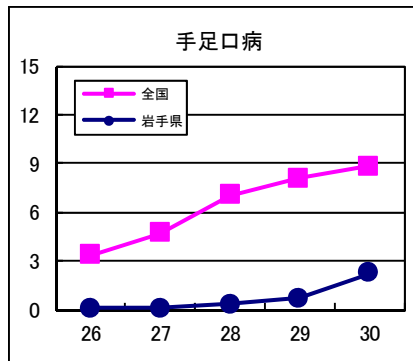
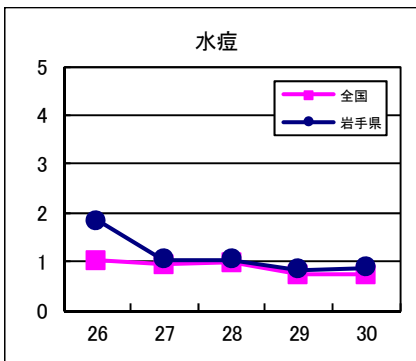
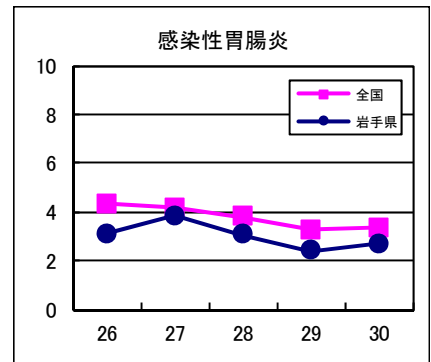
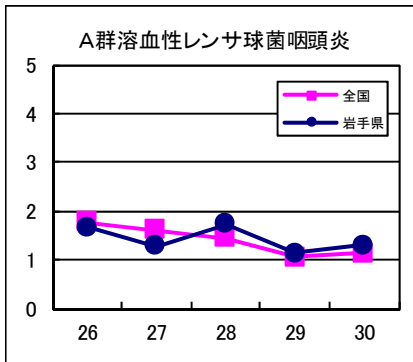
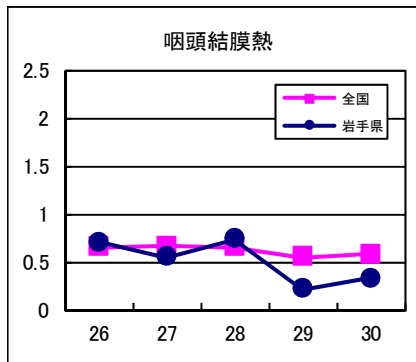
岩手県感染症情報センター

第30週の概要

- 1 類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 2 類感染症 ・結核の患者の報告が、1例(潜在性結核1例)ありました。
- 3 類感染症 ・腸管出血性大腸菌感染症は、14例の報告がありました。奥州地区より4例、一関地区より3例、県央、中部および二戸地区よりそれぞれ2例、盛岡市より1例の報告がありました。今年7月の報告数は、過去10年の7月の報告数の中で一番多いです。本疾患の予防には、食中毒予防の徹底と、ヒトからヒトへの二次感染を予防するため、石けんと流水を用いた手洗いの励行が重要です。
- 4 類感染症 ・レジオネラの報告が1例ありました。患者は70歳代の男性です。
- 5 類感染症 (全数把握対象疾患)
 - ・患者発生の報告はありませんでした。
- 5 類感染症 (定点把握対象疾患)
 - ・手足口病は、前週より増加しました。中部地区で警報値(定点あたり患者数5人)を超えたほか、盛岡市、一関、久慈および二戸地区でも多くなっています。
 - ・ヘルパンギーナは、二戸地区で警報値(同6人)を超えました。盛岡市および宮古地区でも多くなっています。
 - ・百日咳は、これまで乳幼児を中心とした小児で流行する疾患とされてきましたが、最近、中高生や成人にも百日咳の患者がみられています。成人の発生例では、咳が長く続くものの、乳幼児にみられるような重篤な症状が見られるようなことはまれなため、感染が見逃されやすく感染源となって周囲へ感染を拡げてしまうことがあり注意が必要です。

最近の注目疾患 (定点あたり患者数の過去5週の動き)

(疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意)



定点把握対象疾患 (過去5週の動き)

(定点あたり患者数)

疾病名	地域	週					流行傾向	
		26	27	28	29	30		
インフルエンザ	岩手県	0.06	0	0	0.06	0	→	
	全国	0.13	0.1	0.07	0.05	0.03		
RSウイルス感染症	岩手県	0.05	0	0	0.1	0.03	→	
	全国	0.14	0.16	0.18	0.2	0.26		
咽頭結膜熱	岩手県	0.7	0.55	0.73	0.21	0.33	→	☆
	全国	0.65	0.66	0.65	0.55	0.58		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	1.68	1.28	1.73	1.13	1.31	→	☆
	全国	1.78	1.6	1.45	1.05	1.13		
感染性胃腸炎	岩手県	3.08	3.83	3.05	2.38	2.69	→	☆
	全国	4.31	4.18	3.8	3.26	3.34		
水痘	岩手県	1.83	1.03	1.03	0.82	0.87	→	☆
	全国	1.02	0.93	0.97	0.72	0.73		
手足口病	岩手県	0.08	0.1	0.33	0.69	2.23	↗	☆☆
	全国	3.38	4.73	7.01	8.09	8.83		
伝染性紅斑	岩手県	0.08	0.1	0	0	0.05	→	☆
	全国	0.08	0.1	0.11	0.06	0.05		
突発性発疹	岩手県	0.45	0.58	0.55	0.44	0.59	→	☆
	全国	0.67	0.65	0.63	0.6	0.62		
百日咳	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01		
ヘルパンギーナ	岩手県	0.25	0.4	0.45	1.46	1.72	↗	☆☆
	全国	1.25	1.78	2.75	2.84	3.38		
流行性耳下腺炎	岩手県	0.55	0.53	0.73	0.56	0.72	→	☆
	全国	0.29	0.32	0.34	0.28	0.28		
急性出血性結膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.03	0.03	0.02	0.01	0.01		
流行性角結膜炎	岩手県	0.29	0.29	0.29	0.07	0.14	→	☆
	全国	0.59	0.65	0.63	0.61	0.69		
細菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.02	0.03	0.01	0.01	0.03		
無菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0.05	0	0.05	→	
	全国	0.05	0.06	0.06	0.08	0.08		
マイコプラズマ肺炎	岩手県	1.47	1.05	0.89	0.74	1	→	☆
	全国	0.52	0.47	0.41	0.4	0.42		
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.03	0.03	0.03	0.03	0.05		

【流行傾向の見方】

- 無印 : ほとんど患者が発生していません
- ☆ : 患者が発生しています
- ☆☆ : 警報値を超えた地区が1～2地区あります
- ☆☆☆ : 多くの地区で警報値を超えています

全数把握対象疾患 (過去5週の動き)

※重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) が
10週より対象疾患になりました。

(患者発生数)

	疾病名	(週) 岩手県					全国		
		26	27	28	29	30	累計	30	累計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	1
	結核 () 内は潜在性結核感染症患者数	5 (1)	3 (0)	2 (1)	13 (6)	1 (1)	119 (41)	388	14827
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	1
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	2	80
	腸管出血性大腸菌感染症	2	7	10	7	14	55	158	1379
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	1	33
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	0	34
四類 感染症	E型肝炎	0	0	0	0	0	0	0	75
	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0	0	0	0	90
	エキノкокクス症	0	0	0	0	0	0	0	11
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	6
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	キャサヌル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	3
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	3
	サル痘	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	0	0	0	0	0	0	3	29
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	8
	つつが虫病	0	0	1	1	0	6	3	139
	デング熱	0	0	0	0	0	0	5	107
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1、H7N9を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	2	57
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	1	2
	ベネゼエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0
	ボツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	0
	マラリア	0	0	0	0	0	0	1	24
	野兔病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ライム病	0	0	0	0	0	0	0	4
リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0	
類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	2	
レジオネラ症	0	0	0	0	1	2	16	534	
レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	1	6	
ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	

全数把握対象疾患 (続き) (過去5週の動き)

(患者発生数)

※侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性髄膜炎菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症が第14週より、鳥インフルエンザ (H7N9) が第19週より届出対象疾患となりました。

分類	疾病名	岩手県					全国		
		(週) 26	27	28	29	30	累計	30	累計
五類感染症	アメーバ赤痢	0	0	0	0	0	1	13	581
	ウイルス性肝炎 (A型肝炎及びE型肝炎を除く)	0	0	0	0	0	0	1	158
	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く)	0	0	0	0	0	3	2	240
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	10
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	1	2	115
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0	0	1	4	131
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	1	12	872
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	1	42
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	1	2	53
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	3	14
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	0	0	0	0	1	12	484
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	1	9
	梅毒	0	0	0	0	0	1	22	651
	破傷風	0	0	0	0	0	1	2	71
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	33
	風しん	0	0	0	0	0	7	154	13344
麻しん	0	0	0	0	0	0	10	175	
指定	鳥インフルエンザ (H7N9)	0	0	0	0	0	0	0	0

今注目の感染症

百日咳

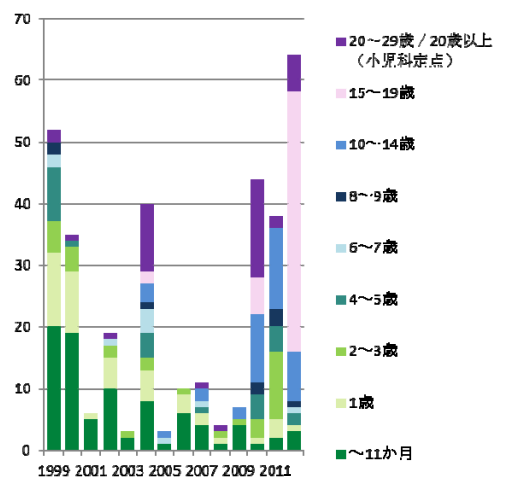
百日咳は百日咳菌の感染によって引き起こされる急性呼吸器感染症で、主な症状は長期間続く咳です。小児の感染症とされていましたが、最近では、青年、成人の報告数も多くなっています。

百日せきワクチンの免疫効果ですが、4～12年で減弱することから、ワクチン接種者も感染しうることが近年明らかとなりました。

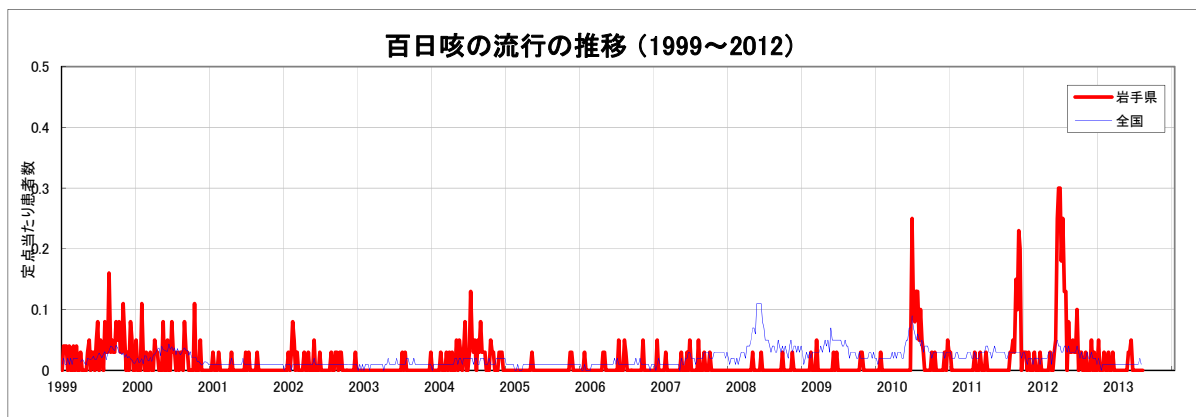
成人の感染例では、咳は長引くものの乳幼児に見られるような重篤な症状はまれですが、感染が見逃されやすく、飛沫・接触感染のため、周囲へ感染を拡げてしまうことがあるので注意が必要です。

乳幼児の百日咳は重症になりやすいのでできるだけ早めに予防接種を受けましょう。

岩手県、1999～2011年年齢層別



百日咳の流行の推移 (1999～2012)



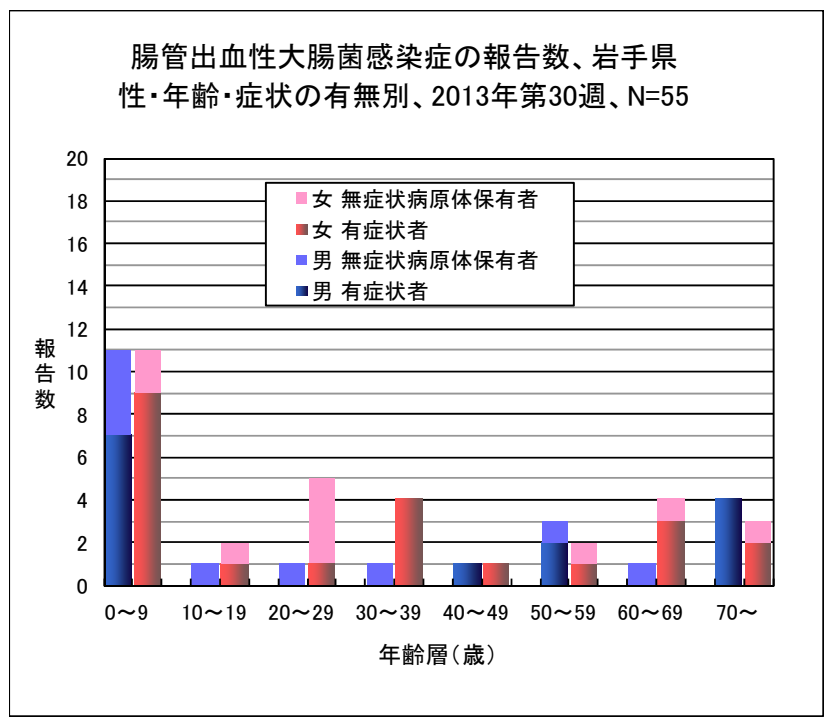
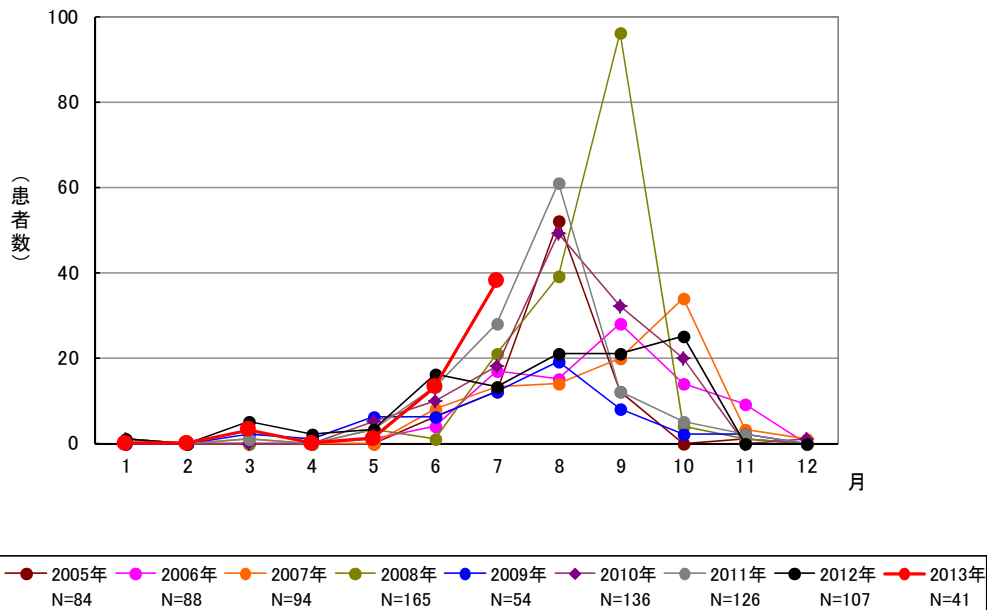
今注目の感染症 (つづき)

腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症は、第30週までに55例の患者が報告されています。原因となった大腸菌はO157が32例、O26が16例で、その他が7例となっています。年齢層別では、0～9歳(22名)、70歳以上(7名)、20～29歳(6名)の順に多くなっています。

岩手県では、6月から10月に発生数が多く、予防には、食品を十分加熱するなど食中毒対策を徹底するとともに、ヒトからヒトへの二次感染を予防するために、石けんと流水を用いた手洗いの励行が重要です。

腸管出血性大腸菌感染症 月別患者数 (岩手県2005年～2013年)



今注目の感染症 (つづき)

風しん

風しんは、風しんウイルスによっておこる、発熱、発疹、リンパ節腫脹を特徴とするウイルス性発疹症です。風しんウイルスは患者の飛沫（唾液のしぶき）などによって他の人にうつります。発疹のでる2～3日前から発疹がでた5日くらいまでの患者は感染力があると考えられています。

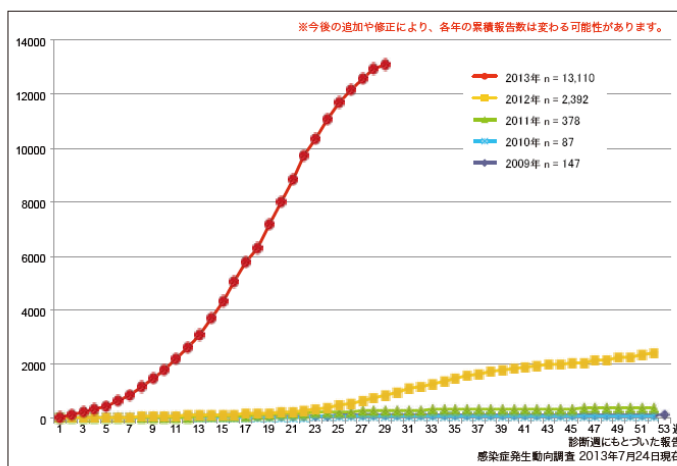
風しんの予防にはワクチン接種が有効です。定期予防接種の対象者（1歳、年度内に6歳になる方）は年度内に接種しましょう。

免疫のない女性が妊娠初期に風しんに罹患すると、風しんウイルスが胎児に感染して、出生児に先天性風疹症候群（CRS）と総称される障がいを引き起こすことがあります。妊娠を希望する女性や、その家族などの成人も、風しんの罹患歴や予防接種歴がない、または不明な場合には積極的に風しんワクチン接種を受けることが勧められます。

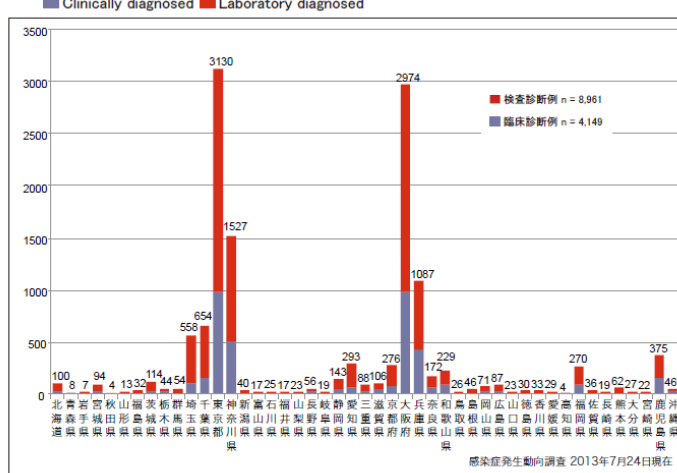
平成25年の全国の風しんの報告は、7月21日までに13,110人となり、昨年の報告数の5倍を超えました。首都圏や関西で報告数が多く、また、発生は全国に広がっています。

参考 国立感染症研究所 感染症疫学センター「風疹」
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/ha/rubella.html>

1. 風しん累積報告数の推移2009～2013年（第1～29週）
 Cumulative number of rubella cases by week, 2009–2013 (week1–29)
 (based on diagnosed week as of July 24, 2013).



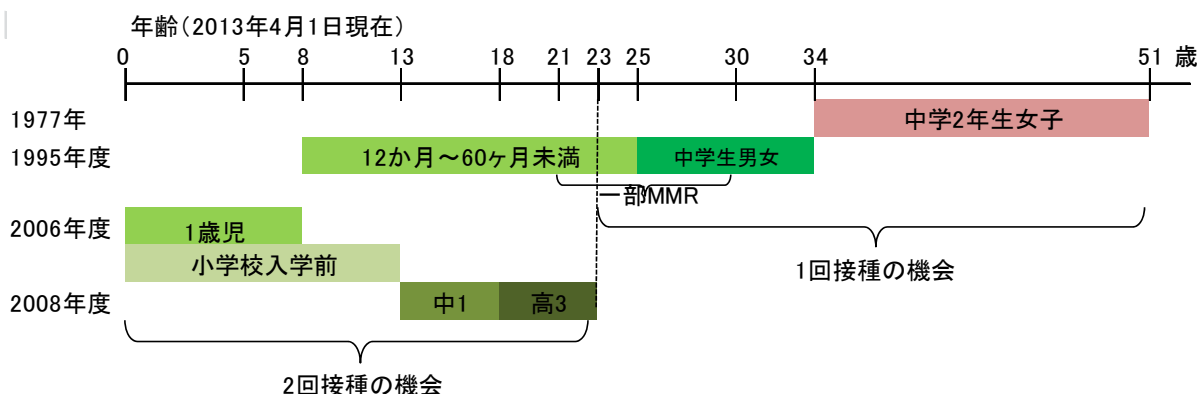
4. 都道府県別病型別風しん累積報告数 2013年第1～29週 (n=13,110)
 Cumulative rubella cases by prefecture and methods of diagnosis from week 1 to week 29, 2013
 (as of July 24, 2013).



国立感染症研究所 感染症疫学センター

今注目の感染症 (つづき)

風しんワクチン定期予防制度の接種の変遷



風しんの予防接種は、1977年8月に女子中学生を対象に始めました。
 1995年から乳児を対象に医療機関での個別接種となりました。時限的に男女中学生も対象となりましたが、保護者同伴の個別接種のため接種率が激減しました。
 2006年から、1歳と小学校入学前1年間の幼児に対する2回接種が始まりました。また、2008-2012年度の5年間に限り、中学1年生、高校3年生相当年齢の方に2回目の接種ができるよう時限措置を実施しました。

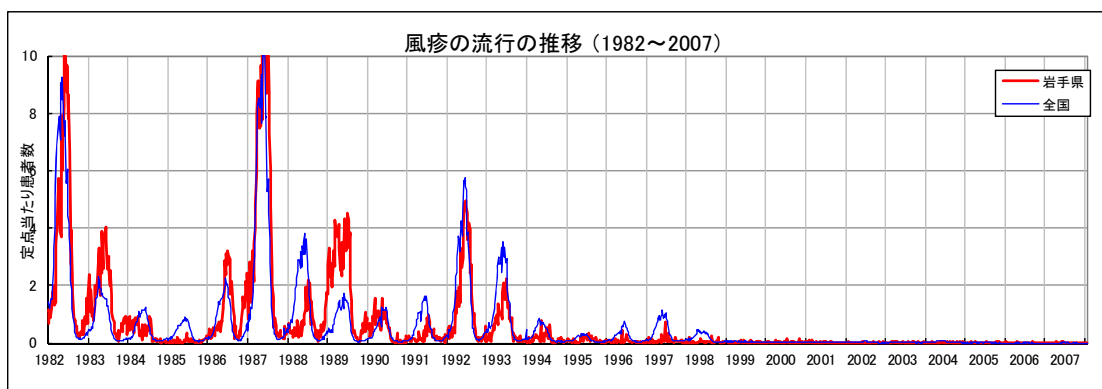
詳細は国立感染症研究所病原微生物検出状況IASR4月号
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/rubella-m-111/rubella-iasrtpc/3459-tpc398-j.html>

岩手県の風しん

岩手県の風しんの発生状況ですが、1997年の流行以降、次第に発生数は少なくなりました。
 平成20年(2008年)に定点把握疾患から全数把握疾患に変更になってから平成25年7月14日まで、13例の届出がありました。
 今年に入ってから、7例届出されています。

岩手県内における風しんの届出状況(平成20年1月～平成25年5月)

診断日	保健所	性別	年齢	予防接種歴	備考
平成25年5月24日	県央	男	46	不明	臨床診断例
平成25年5月23日	釜石	男	28	無	検査診断例
平成25年5月23日	奥州	男	13	無	臨床診断例
平成25年5月18日	宮古	男	31	無	検査診断例
平成25年5月7日	宮古	男	62	不明	検査診断例
平成25年4月15日	県央	男	2	不明	臨床診断例
平成25年2月8日	中部	男	19	無	検査診断例
平成24年8月9日	奥州	男	14	2回	臨床診断例
平成23年3月23日	盛岡市	男	21	無	検査診断例
平成22年12月27日	一関	男	5	1回	臨床診断例
平成20年12月26日	奥州	男	34	不明	検査診断例
平成20年6月17日	中部	男	6	1回	臨床診断例
平成20年6月9日	中部	男	7	不明	臨床診断例



病原体検出情報

○この週には病原体検出情報はありません。

集団感染情報

・この週には集団感染情報はありません。

医療機関からの情報

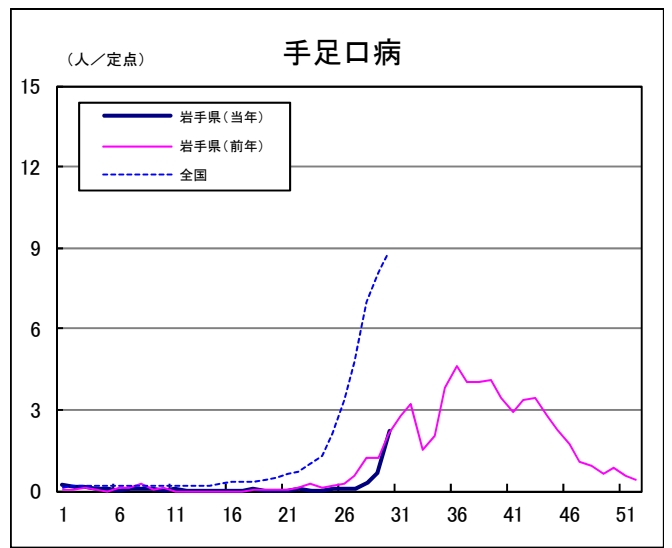
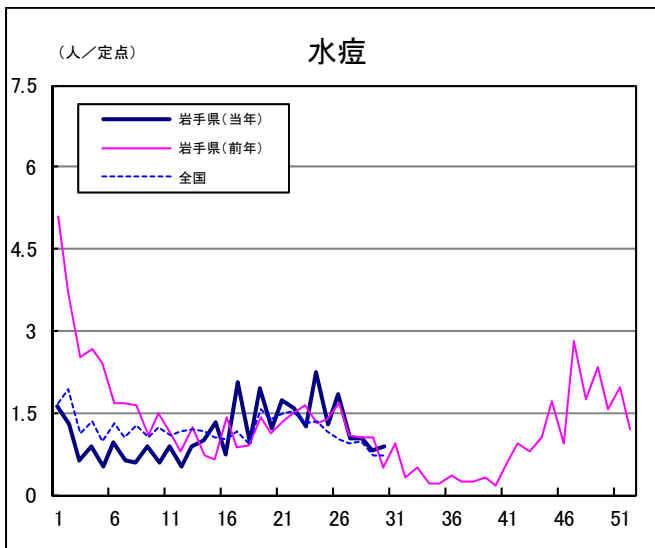
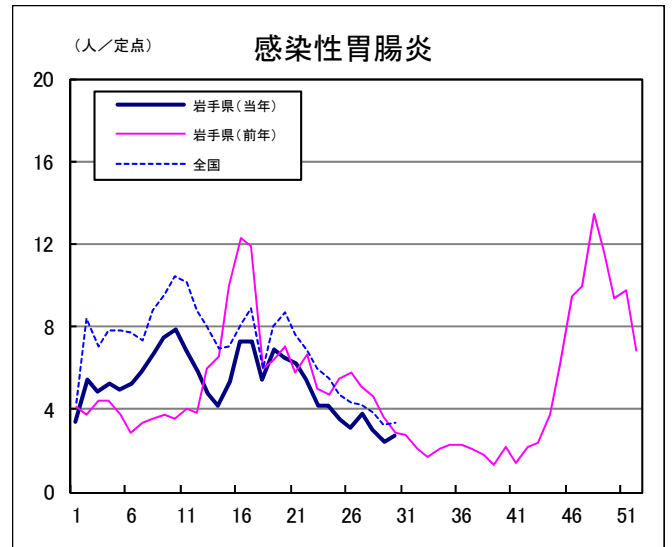
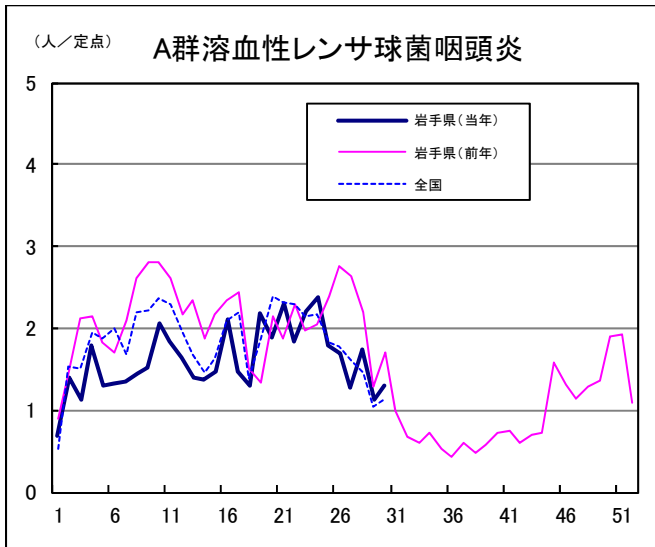
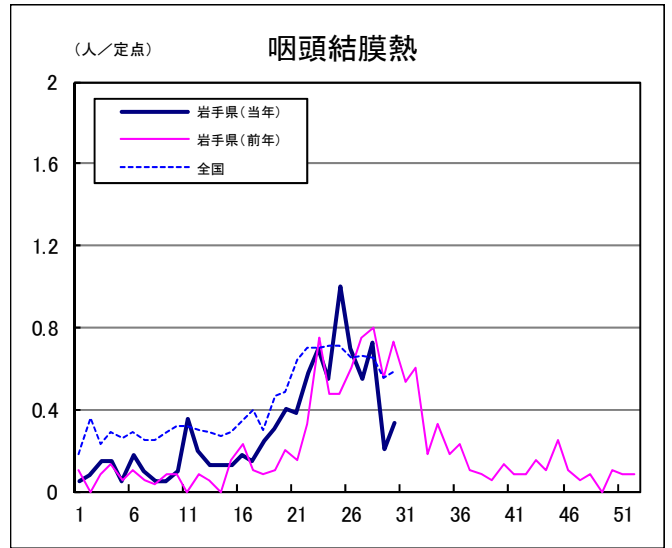
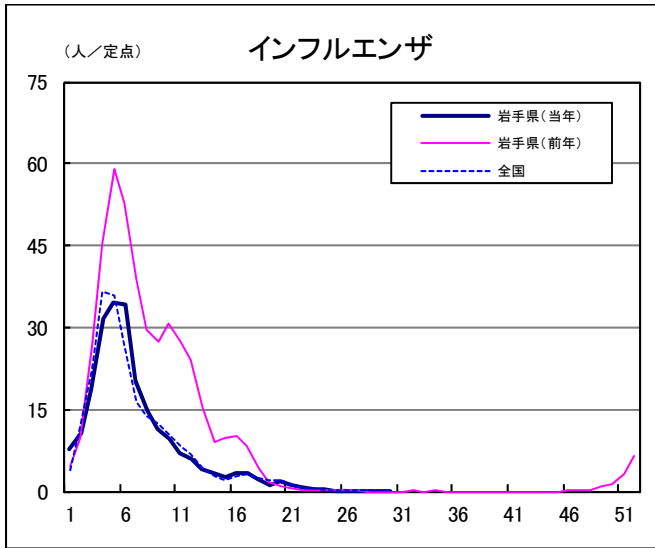
・この週には医療機関からの情報はありません。

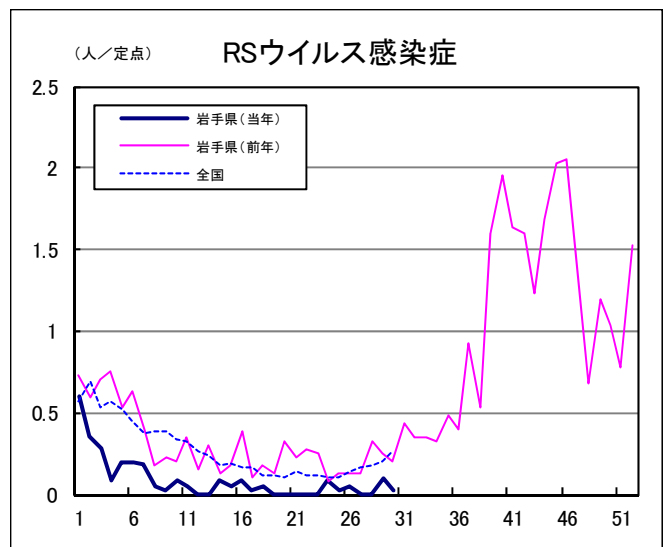
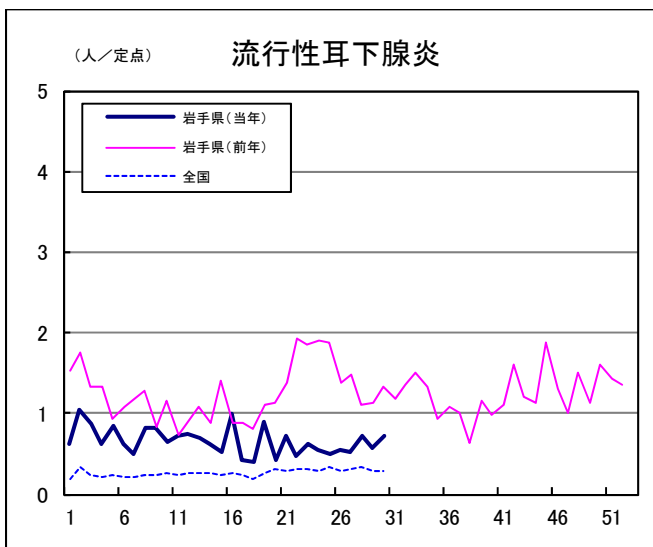
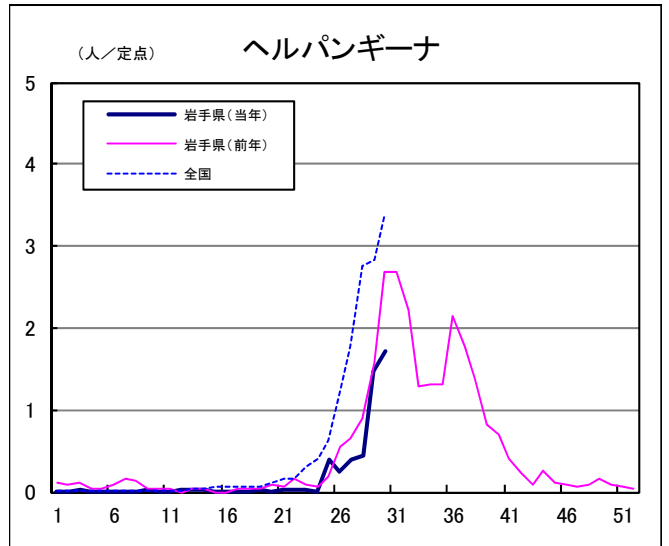
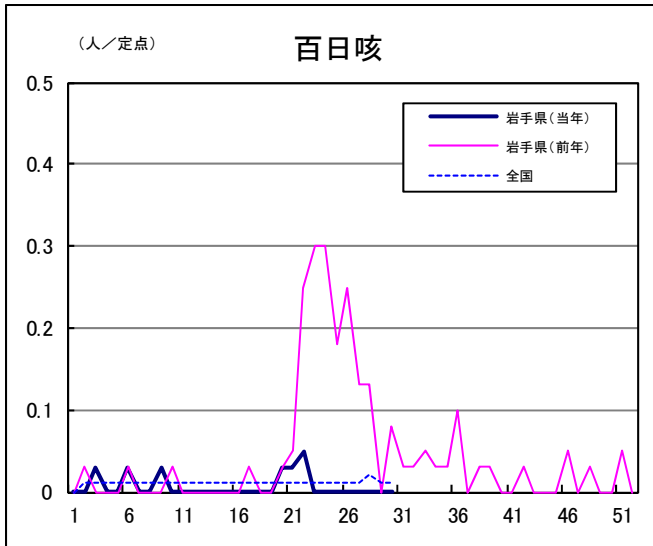
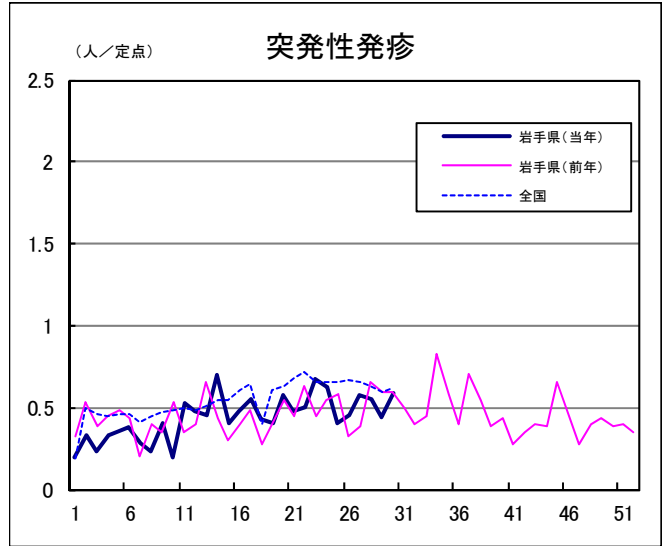
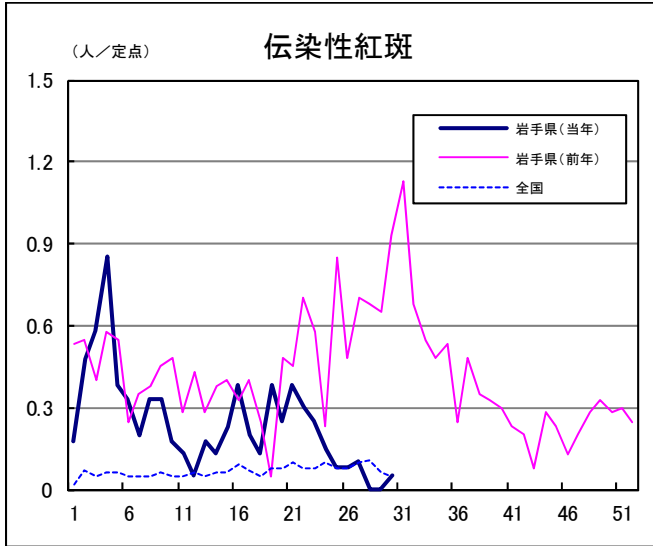
Q & A

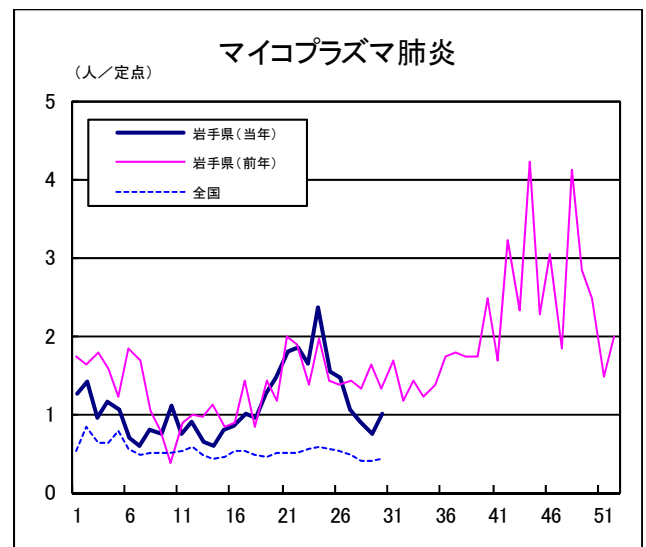
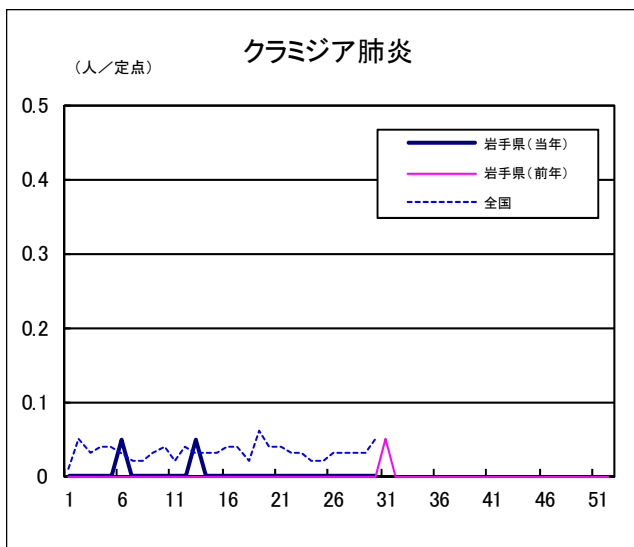
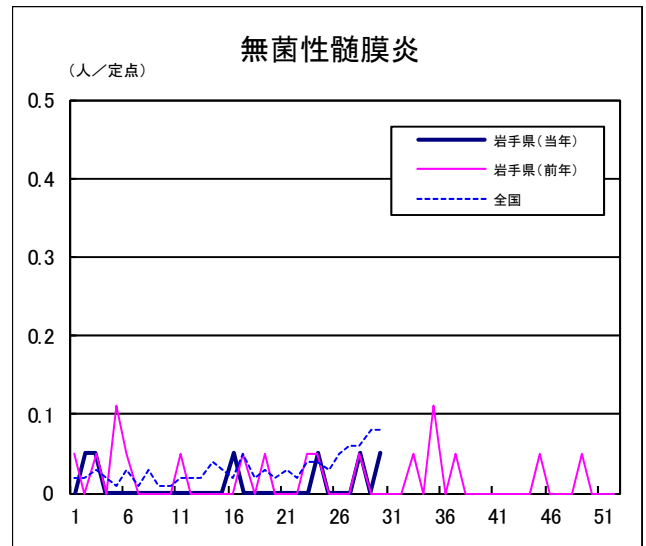
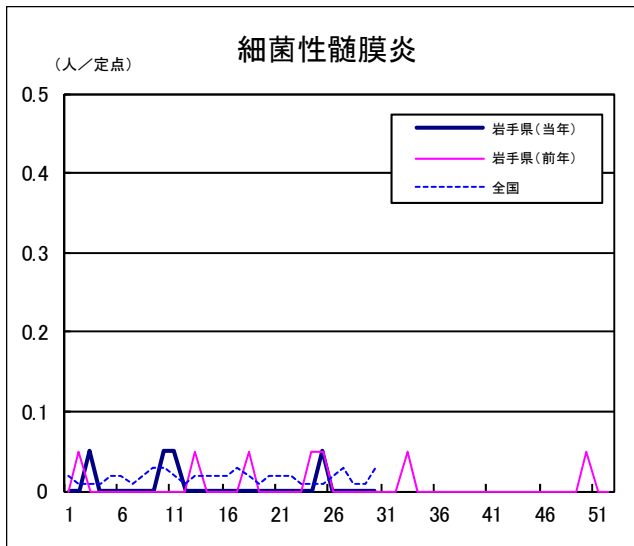
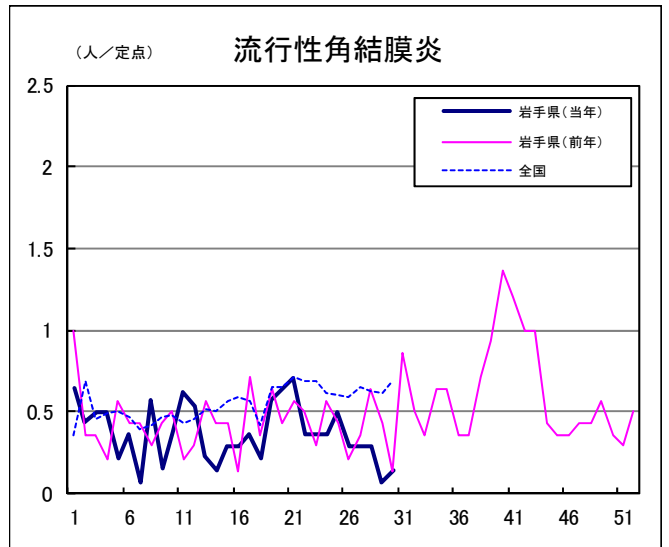
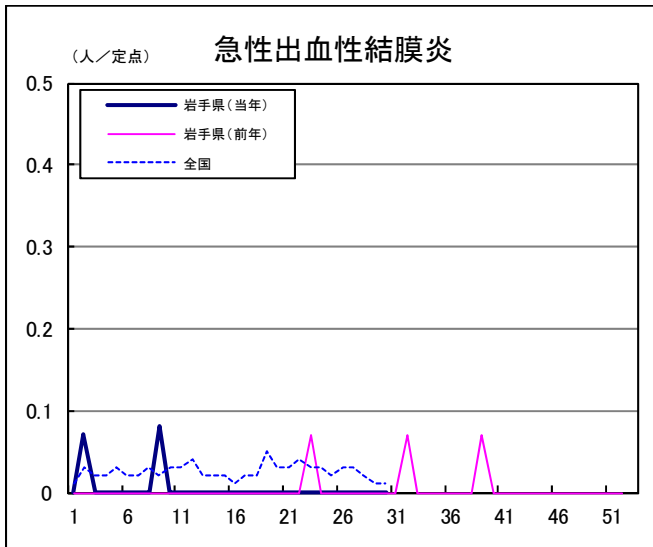
読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。
岩手県感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16
（平成24年2月20日より住居表示が変更となりました。）
TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667
E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

疾病別グラフ (定点あたり患者数の推移)







定点医療機関の数

地区	定点種別 インフル エンザ	小児科定 点	眼科定点	基幹定点
岩手県	63	39	14	19
盛岡市	11	7	3	5
県央	7	5	2	0
中部	12	7	2	4
奥州	7	4	1	2
一関	7	4	1	2
大船渡	6	4	1	1
釜石	3	2	1	1
宮古	5	3	1	1
久慈	3	2	1	1
二戸	2	1	1	2



無料です!!

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下のURLからお願いします。

<http://www.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 平成25年第30週 平成25年8月2日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査委員会

発行：岩手県環境保健研究センター
岩手県保健福祉部医療政策室

事務局：岩手県感染症情報センター
(岩手県環境保健研究センター保健科学部内)

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

(平成24年2月20日より住居表示が変更となりました。)

TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

URL: <http://www.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

<岩手県感染症情報センター>

<http://www.pref.iwate.jp/info.rbz?nd=345&ik=3&pnp=17&pnp=60&pnp=345>

<岩手県保健福祉部医療政策室>